

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401822		
法人名	社会福祉法人楽々会		
事業所名	グループホーム楽苑 楽1棟		
所在地	長崎県島原市有明町湯江乙1138		
自己評価作成日	令和8年2月10日	外部評価結果確定日	令和8年6月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4271401822-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	長崎市弁天町14-12
訪問調査日	令和8年3月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員全員が女性にて対応しており、常に笑顔を保ち、細やかなサービスを提供している。
職員同士連携体制も取れ、利用者との信頼関係も築けている。
利用者一人ひとりのことを考え、その人に合った支援を心がけ、利用者が毎日笑顔で楽しく過ごせるよう日々努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員同士の風通しが良く、日常的なコミュニケーションが円滑に図られていることにより、職員の定着率が高く、安定した支援体制が維持されている。このような良好な人間関係がチームケアの質を高め、利用者一人ひとりを尊重した支援の実践につながっている。また、利用者の笑顔が職員のモチベーション向上に結びつき、より良いケアの提供へと好循環を生み出している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「楽苑は楽しい苑(ところ)、楽しくなければ楽苑じゃない」という理念を作り、その理念を心がけ楽しい雰囲気作りに努めている	職員は理念を理解した上で支援にあたっており、日常のケアの中で理念の実践が図られている。また、利用者が楽しく過ごすことを当たり前とする意識が共有され、生活の質の向上に向けた関わりが見られる。	理念についての振り返りの機会が設けられていないため、理念の理解や実践状況を定期的に確認・共有する仕組みの構築が求められる。年1回など定期的な振り返りの場を設け、職員間で理念の意味や日々の支援との結び付きを再確認することで、共通理解の深化と実践力の向上につなげることが期待される。また、その内容を次年度の取り組みに反映させ、理念が形骸化せず現場に根付くよう継続的な改善が望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍にて交流も最小限になり、缶拾い・地域清掃・消防団との消防訓練・子ども110番などで日常的に交流している	施設だよりを毎月自治会へ配布し、地域への情報発信を継続的に行っている。また、法人主催のグラウンドゴルフ大会の開催や、近隣の神社の神輿の来訪を受け入れるなど、地域との交流機会を積極的に創出している。これらの取組は利用者の喜びや生活の充実につながっている。さらに、地域消防団と連携し年1回の消防訓練を実施するなど、地域との協力関係を築きながら安全面にも配慮した運営が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に自治会長にさんかして頂き運営推進会議を通じて理解や支援方法を地域の人々に向けて活かしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度、市町村職員自治会長利用者の家族の方を交えて会議を行い、報告や話し合いをしてサービス向上に努めている	運営推進会議において議事録や近況報告を作成し、常時閲覧できる体制を整えているなど、透明性の確保に努めている。また、年に1回の食事会の開催により、参加者同士の交流や理解を深める機会を設けている。出席した家族から満足の言葉が聞かれるなど、取組の有効性がうかがえる。これらを通じて、運営推進会議を活かした開かれた事業所運営が図られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町内清掃や消防訓練に参加し事業所の実情やサービスの取り組みなど情報を提供し協力関係を築けるよう努めている	家族からのクレームに対して適切に対応し、必要に応じて市町村との連携を図る体制が整えられている。また、広域連合へ毎月空き状況を報告するなど、行政との情報共有を継続的に行っている。これらの取組から、市町村との連携を意識した運営がなされている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員、身体拘束をしないケアを心がけており、玄関の施錠もしておらず、センサーにて対応している	移動時の安全確保に配慮しつつ、利用者および家族の了承を得た上で車いすベルトの使用を必要最小限にとどめており、身体拘束の最小化に向けた姿勢が見られる。使用状況については毎月家族へ報告し、透明性の確保にも努めている。身体拘束廃止委員会を設置し、組織的に拘束廃止へ取り組む体制が整えられている点も評価できる。また、利用者の表情や夜間の様子から不穏な動きを察知し、その情報を朝のミーティングで共有するなど、拘束に頼らないケアの実践に向けた日常的な観察と職員間の連携が図られている。	身体拘束適正化委員会を設置していることを踏まえ、虐待・身体拘束チェック表を有効に活用しながら、会議において具体的な課題の抽出と改善策の検討を深めていくことが求められる。チェック表の結果を分析し、日々のケアの見直しや予防的な対応に結び付けることで、身体拘束のない支援の実践をさらに推進していくことが期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強の場を持ち、自宅や事業所内での虐待が無いよう注意を払っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センター指導のもと、権利擁護の成年後見制度について学ぶ機会があり、必要があれば活用出来るよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には、必ず十分な説明を行い家族からも疑問点や不安なことを尋ね理解・納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設けたり苦情処理ノートを作成しており、それらを運営に反映させている	家族との面会時に玄関先で一定時間を設け、現況報告を行うとともに、その日の利用者の表情や様子を丁寧に伝えることで、家族との情報共有と関係性の維持に努めている。家族からの要望についても把握しており、嗜好に関する希望などを受け止める姿勢が見られるが、実現が難しい内容も多く、対応には一定の制約がある状況である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送りの時間に意見を交換したり、普段から職員間で話し合いをしたりしている 昼休みの食事後はほぼ毎日のように話し合いをしている	昼食後に話し合いの場を活用し、職員間で意見交換を行う機会が確保されている。足湯機器やマッサージ機の購入に職員の意見が反映されており、現場の声を運営に取り入れる姿勢が見られる。新規利用者の情報をカウンターに設置し共有するなど、日常的な情報伝達の工夫もなされている。さらに、管理者から積極的に声掛けを行い職員の意見を把握する取り組みがあり、意見を出しやすい環境づくりが進められている。加えて、希望休がほぼ希望通り取得できている点からも、職員の意向が運営面に反映されている状況がうかがえる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員の努力や実績、勤務状況を把握し、やりがいを持って働けるよう職場の環境や条件の整備に努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	職員の力量を把握し、研修に参加してもらう ことにより、更なる能力の向上に努めている 。施設内でも研修の機会を設け意識向上 につながっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	研修や、講習会を通じて交流する機会をつく り、意見交換することによりサービスの質の 向上につなげている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っているこ と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が安心して生活が出来るように不安 な事や要望等に耳を傾けながら関係性を築 けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	入所時の段階で家族からの信頼関係を築 けていけるよう要望や相談を受け対応に努 めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族にどのようなサービスが出来る かを「その時」の状況状態を見極めながら努 めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ空間を共に過ごす者として介護する側、 介護される側という立場だけでなく料理や 様々な場面で、昔の知恵をお借りしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	職員と家族が共に本人を支えていく関係作 りをしていく上で面会に来られた際、本人の 状況を報告したりコミュニケーションを取っ ている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症などで面会も以前のように出来なくなっている中、時間を制限しながら短時間の外出や面会の機会をつくっている	利用者からの要望に応えるべく、電話等に対応したり、ドライブを兼ねた外食の機会を設けるなど、馴染みの人との関係継続に配慮した支援が行われている。ボランティアによるコンサートの開催も、地域とのつながりや馴染みの場の継続に寄与している。一方で、すべての利用者が外出やイベントを望んでいるわけではないことを踏まえ、一人ひとりの意向や状態に応じた対応がなされており、個別性を尊重した支援が実践されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの利用者の性格を把握して、いい関係を築けるようリビングの席を変えたり、仲介などに努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても外出先などで家族に会った時は経過を尋ねたりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の方が、他の利用者の方に花を取ってきたいと言われればそれを尊重するなど、一人ひとりの生活スタイルや意向に合わせていけるようその人らしい暮らし方を検討している	ホームの基本的な考え方としてまずは利用者の考えや意見を否定せずに受容する姿勢で接して、意向を可能な限り尊重することを根底に掲げている。また入居している利用者はそれぞれの生活歴や考え方、習慣があることを理解して個々の考え方や、やり方を大切にしている。利用者個々の情報は朝の申し送りを中心に連絡ノートや口頭で共有するようにしている。利用者の意向が分かりづらい場合は、ご家族からの情報をベースにして生活全般の様子観察を密にして把握するように努めている。様子観察する際に大切にしているのはちょっとした「表情の変化」や「場面毎の仕草」であった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、病歴等、主治医や家族を通じ把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が生活スタイルの内容・経緯がわかるように、一人ひとりの日常生活をカルテに記入して把握できるよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを作成する際に日常生活の中で本人の願いを見出し、スタッフ同士で話し合いアイデアを出し合っている	計画書作成のプロセスにおいて、ホームが大切にしていることは、本人主体の内容で作成することと、職員皆で情報共有した内容を計画書の支援内容として落とし込む点である。本人主体の計画書は「本人の望むこと」や「意欲を示すこと」を重点的に構成するようにしている。また職員皆で作る計画書の工夫点として、利用者のケース記録の際に「楽しみごと→赤色」、「注意すること→黄色」、「サービス提供→青」と分別して記入することで、情報を整理してわかりやすくまとめた上で作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	現状に合ったプラン作成になる様、6か月に1回はケアプランの見直しを行い、家族の意見を取り入れるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	マッサージ機を利用したり一人ひとりの能力に合わせたレクリエーションを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりが安全な暮らしを楽しめるように、地域の消防団ともすぐに連絡が取れるようにしており、火災等の避難訓練にも参加して頂いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にできるだけ以前からのかかりつけ医との関りを持ち、主治医との信頼関係の中、本人・家族の方が不安にならないよう支援している	ホームのかかりつけ医に関する基本的な方針として、利用者やご家族の意向を第一に尊重した上で、その後の関わり方を決定するプロセスを経ている。ホームの協力医は365日24時間連絡を取ることができる安心感があり、利用者に異変がある場合は早い段階で連絡を取ることができるため、職員にとっても不安感を払拭できている。その他歯科や皮膚科等専門医へは個別に対応しており、診療の結果は必ずご家族へ報告するようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一人ひとりの体調等は個々のカルテに記入し、訪問看護師に指示を仰いだり、急を要する時は主治医に報告をし体調管理を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換を行い、退院時に利用者が不安にならないように生活環境を整える支援をしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、職員で話し合いを行い、病院から利用者の体調の報告を受けた後どの段階まで施設で見届けることができるのかを検討して支援している	ホームにおける重度化した場合や看取りに関する説明は、介護サービスを可能な限り継続して受けるための同意書により実施している。利用者やご家族への説明は入居契約時に行い、その後は随時状況に応じて改めて行うようにしている。利用者が看取り期に入った場合は、医師から状況の説明を行い、その後の総合的な方針を決定する。看取り期は状態観察を密に行い、関係者間で日々の状態を共有ながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応や救急手当(心臓マッサージ・AEDの使い方)を職員全員ができるように訓練を受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	非常用消火器の使い方、通報の手順など火災時の避難訓練を消防団や消防署の職員立会いのもと行っている	消防計画に基づき避難訓練を実施している。訓練毎に記録を残して検証を行っている。また、ホームの所在する地域の消防団分団長が万が一に備えて建物の構造や避難経路等を確認している。令和7年度は訓練を規定回数できなかったため、早急に対応するとのことであった。	消防計画に基づき少なくとも年に2回以上の避難訓練実施を行う必要がある。同時に自然災害を想定した訓練も同時に行うことが望ましい。更に実施後は運営推進会議の場で実施状況の報告を行うところまでの実施を期待する。

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の言葉や意思などを否定せず尊重し、プライバシーを損なわない言葉かけや対応に努めている 自室のドアも開けたままにせずカーテンを利用してプライバシーの確保に努めている	ホームが大切にしている価値観は「個の尊重」で、利用者が安心して穏やかに過ごす時間を長く、また、落ちついて日々の生活を送ることができるかを考えている点である。職員は利用者個々に話しかけ方や質問の仕方、呼称を変えたり、利用者の表情やしぐさ、行動から何を訴えたいのか察するようにしている。利用者の表情が和らいだり、反応が変わってきた際は、関わり方等を職員間で共有して同様の対応ができるように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思がわかりやすく表せるような言葉かけや対応に努め、難聴の方にはジェスチャーを使うなど自己決定ができるよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が一日をどう過ごしたいか本人のペースを優先し希望に沿うよう努め、体調の変化にも対応し支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えなど洋服のピックアップなどをお手伝いしてその方らしい身だしなみが出るようにしてる 2ヶ月に1度訪問での散髪があり、希望に沿ったスタイルで生活できるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使って一緒に下ごしらえをしたり 饅頭・干し柿・ホットケーキ・どんだへ(郷土料理)など利用者の能力を活かした食事の準備・片付けなど支援している	ホームのキッチン各ユニット共に利用者が日常的に過ごしているリビングに接しており、職員が利用者と会話しながら献立を話し合ったり料理をしている姿こそが食を楽しむ縮図といえる。日常的な姿ではあるが職員は利用者から旬の食材を使った料理方法を教わったり、季節や気温に合わせたメニューを急遽作ったり、まさに家庭の延長のようなやり取りが魅力的であった。このようなやり方で日々の食事を作っているため事前の献立表はなく、その日その時の会話を基にして職員が対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日の体調や状態に合わせて、食事の水分量や糖分量、減塩など栄養バランスを考え提供している 早食い・飲み込みの悪い方にはミキサー食やトロミ食などでその方に応じた支援をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず一人ひとりに声掛けし口腔ケアをして頂いている 介助の必要な方には誘導して口腔内の清潔保持に努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一日の流れでトイレ誘導やトイレへの移動を行い、トイレで排泄が出来るよう個々の習慣を活かして排泄の自立に向けた支援を行っている	排せつの自立に関して、利用者個々の排泄パターンがあるため、チェック表に基づき声掛けや誘導等を行っている。排せつに限ったことではないが、利用者の生活意欲が高まれば自然とやる気生まれて、「自分で動く→立位ができる→トイレでの排泄に繋がる→オムツが外れる」という流れができるため、励ましの言葉をかけながら自立支援に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を作り毎日の排便の有無を確認しその方に合った食事の水分量で調整し運動や下剤にて便秘の予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調不良を除き、本人の希望に合わせて入浴を楽しめるよう支援している 入浴困難時には清拭や足湯などで補い支援している。	ホームの入浴に関する基本的な流れとして、1日おきに入浴を促していることと、利用者の予定や行事等がない限り、午後から支援を行っている。ホームでは個浴対応をしているため、利用者は職員とゆっくり会話をする時間となっている。体調や気分がすぐれない場合は翌日に変更する等、柔軟に対応を行っている。また、入浴を楽しむ一環として、季節に応じた菖蒲湯や柚子湯を実施して、季節を感じることもできるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活パターンを把握し、本人の愛用の備品を取り入れ、楽しく生活出来るよう支援している 環境が変化してもそれぞれの生活習慣で暮らせるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの病歴を把握し、薬を管理している 体調不良時、薬の変更時は職員で共有し症状の変化や的確な服薬が出来るよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一緒に生活していく中で一人ひとりの力を見出し役割を担っていただく中で生活感を持ってもらい嗜好品や楽しみごとを見つけることで気分転換が出来るよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で以前のように思い通りに出かけることが出来ない中、混雑を避けてドライブなどに出ている 家族との外出はなかなか実現できないが面会では苑内の散歩などが出来るよう努めている	ホームの敷地は広く、玄関を出たら草木も多く目にすることが出来るため、外気浴や日光浴を兼ねて随時、散歩という形で実施している。ちょっとした時間でも外に出ることで季節を感じる事ができたり、気分転換や職員と会話するいい機会となっている。外食については主にご家族に協力を得ながら実施している利用者もいて、ご家族との交流も含めて楽しみとなっている。買い物に関しては大半が利用者からの代行依頼であるため、職員が実施しているとのことであった。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの金銭感覚を確認し管理のできる方は見守りの上自分で使えるよう一緒に買い物に行くなどして支援している 金銭管理の出来ない方は家族に行って頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて電話はすぐ利用出来るようにしている 手紙も投函や必要であれば代筆などの支援をしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のリビングは吹き抜けで中庭もあり光がよく当たる明るい空間になっており一日中利用者の方が過ごしやすくなっている 苑外に咲いている花を飾るなどして居心地よく過ごせるよう工夫している	ホームの共用空間はキッチンがすぐそばにあり、食事に関する音や匂いや、ご飯を作っている職員との会話が自然に発生する姿が印象的で、家庭にいるかのような雰囲気であった。このスペースで特に気がけていることは、利用者の入れ替わりがあった際にテーブルの高さが合っているかや、車椅子使用の場合、動線を確保できるか等、利用者の身体に合っているかという点であった。また人が集う場であるため、温度や湿度、衛生面にも特に留意して居心地の良い空間作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	苑内の廊下には椅子・テーブル等が設置しており一人の時間や仲の良い利用者と過ごせるよう配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段から使い慣れたもの、見慣れたものなどで安心できる部屋作りをし居心地よく生活できるよう工夫している	居室内のベッドや家具等の配置に関しては、入居前の生活環境を確認したり、利用者の身体機能をアセスメントした上で行っている。ベッドからの滑落や居室内での転倒を極力予防する点での事細かいホームの配慮を感じた。居室内の持ち込みに関しては危険が及ばない限り特に制限はなく、利用者個々が希望する品を搬入している。また、居室出入り口には職員手作りの貼り絵が貼ってあり、会話のきっかけとなるばかりではなく、温もりを感じることもできる1場面であった。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、廊下などほぼすべてがバリアフリーになっており、車椅子でも余裕を持ってすれ違える広さの廊下があり、手すりの設置もあるので自力歩行しやすく、ベッドや自室にも手すりがあるので起きてすぐ安全に生活ができるよう工夫している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401822		
法人名	社会福祉法人楽々会		
事業所名	グループホーム楽苑 楽2棟		
所在地	長崎県島原市有明町湯江乙1138		
自己評価作成日	令和7年2月10日	外部評価結果確定日	令和8年6月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&ljgyosyoCd=4271401822-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	長崎市弁天町14-12
訪問調査日	令和8年3月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

全員が女性スタッフで笑顔の絶えない職場でありきめ細やかなサービスを提供している
職員同士施設内のことはすべて共有・連携してチームワークもよく取れている
立地的に自然に囲まれ、交通量も少ないので、苑庭にてバーベキュー、そうめん流し、花火等季節に合った催し物・サービスで支援している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「楽苑は楽しい苑(ところ)、楽しくなければ楽苑じゃない」を法人理念に掲げ毎日利用者の方々と全職員で楽しく過ごすことが出来る事業所になるよう取り組んでいる			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	老人会のグラウンドゴルフ大会、地元消防団の方々との消防訓練などを通して日常的に関わり、交流していけるように努めている			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通じて、認知症の方々に対する理解、支援の方法を地域の方に向けて活かしている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度話し合いの場を作り、サービス内容や身体的拘束等について意見交換を行い職員同士でも常に情報共有などを行いサービス向上に努めている			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の相談員の方が月に一度来られ、利用者の方から話を聞いたりしながら事業所の現状把握などをされる その後施設の実情やケアサービスの取り組み等の問題点を改善したりサービスの質向上ができるよう協力関係を築いている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員、身体拘束をしないという事を理解した上で利用者の方と関わっている 施錠は行っておらずセンサー音やドアに鈴などをつけて対応している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員虐待があってはならないと理解している 勉強会や研修会などを行い利用者の方々に対しての言葉かけや態度に気を付けながら接している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護制度について学ぶ機会があり、利用者も制度を利用されている方から話を聞いたりして必要性がある方にも話をして支援をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に見学・ご家族の方や利用者の話を聞き十分な説明を行い、理解・納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、ご家族の方が面会に来た際に要望等を全職員に表せるよう機会を設けており、運営に反映させている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送りや、日々の勤務の時でも相談や話し合いをする場があることで意見等の反映ができています		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの実績や努力していることを把握することで、毎日やりがいをもって働けるような環境整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの能力等を把握し、法人内外の研修を受ける機会を促し個々が向上心ややりがいをもって働けるよう支援している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や意見交換など他事業所との交流活動をして、サービスの質の向上に取り組んでいる		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いや、意向を出来る限り表現できるよう言葉かけに努め要望を職員間で共有している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面会などで近況等を伝えるようにして、家族が抱える問題点を相談・支援ができるような関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望を聞いたりサービス支援に最善の対応が出来るよう心掛けている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活に必要な役割を担ってもらうなど協力関係を築いている 時にはお互い知恵を出してもらうこともある		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人にとっての今の課題について一緒に考えたり、家族にも本人の気持ちを伝え互いに支える関係にある		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自治会、敬老会などの参加や出来る限りの家族との外出などを支援し推進している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	風船バレーや塗り絵、洗濯物をたたむなど一緒にして頂いたり、個性を活かした環境を多く見つけ、共同生活が送れるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時折近況を伺ったり、会った時は気軽にお話ができるよう現在の状況を把握するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方に合った手助けをしたり、改善すべき点を見つけたり、健康面・精神面の安定に努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生い立ちなどを、ご家族の面会時やモニタリングの際に聞き取りを行うなど、これまでの生活の把握をしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の状態変化を観察してカルテの記入をし、記録に残すことで職員全員が把握できるように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング表は各担当で意見交換したり、ご家族の意向を取り入れてケアプランを作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子やケアの内容を記録し職員間で情報共有し、実践や介護計画に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の生活状況や家族の対応などニーズに応じて、サービス提供や支援に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育園児の慰問や自治体・消防団との連携などであんぜんで豊かな暮らしが出来るよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を尊重し入所前のかかりつけ医を大切にして適切な医療が受けられるよう支援している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調に応じて適切に病院受診が出来るよう、看護師の申し送りを確認し入居者の状態の把握に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関との連携を密にし、早期退院に向けて、家族と病院との情報交換や相談の支援に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、病院に終末期に事業所で出来ることを説明し、家族の要望にできるだけ応じられるよう努めている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置し、定期的に消防署立会いのものと訓練をしている 緊急時の対応についても迅速に対応できるよう努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災を未然に防ぐために防災のカーテンやカーペットを使用したり、全職員が緊急時に対応出来るよう日常的に避難訓練を行っている また年に数回、消防署立会いの避難訓練を行っている		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの意思を尊重しプライバシーを確保しながらその人その人の思いを否定せず言葉かけに配慮し対応している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の判断ではなく本人の希望で意思決定できるようよう努めている 難聴の方には筆談やジェスチャーで自己決定出来るように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に1日を過ごしていただき、レクリエーション・行事等の参加は無理強いせず希望に沿って支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪に来てもらっている 季節に合った衣服を選びその人らしい身だしなみ出来るよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみと思ってもらえるよう盛り付けなど工夫して提供している 味見をしてもらったり、テーブルを拭いてもらったりして手伝ってもらっている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事量、水分量を考え、普通食・きざみ食・ミキサー食・汁物にとろみを加える等その人に合った食事を提供している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがいを行い、義歯の方には入れ歯洗浄剤を使用するなど、個々に応じた口腔ケアを行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導を定期的に行い排泄パターンをつかみトイレで排泄できるよう支援を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便チェック表にて毎日の排便の有無を確認し便秘にならないよう下剤で調整し、運動・食事にも気を付け予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりのその日の体調をふまえ、入浴前に本人に伺ったり、希望に合わせて支援をしている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室には使い慣れたものを置いてもらい、部屋の温度調整に気を付け、安眠できるよう努めている 施設内のソファや畳間でも自由に休息を取れるようにし、安心して生活できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は施設で管理・保管している 一人ひとりの1日分の薬を仕分けし、状態の変化を見逃さないよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのできることを見出し役割、楽しみごとなど提供し気分転換できるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見、ドライブ、外食など外出する機会を作っている 家族の希望で一緒に外を散歩したり外出できるようにしている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は家族が行っている 本人がお金を持つことを希望したり家族が希望された時は本人に持たせ、使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話を使用できるようにしており、手紙も出せるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆が使う場所は清潔・消臭・季節感を心がけ、個々の部屋は室温などに注意し、居心地よく過ごせるよう努めている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、廊下にソファ・椅子・テーブルを置き、利用者同士で使ったり、一人で使ったりと自由に過ごせるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていた家具、使い慣れたものなどを持ち込むことが可能で、家にいた時と同じ空間に近づけることで居心地よく過ごせるようにしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室など、施設内のいたるところに手すりが設置しており、ベッドにも必要に応じて手すりを付け、自立した生活を送れるように支援している		